

第4回福島市公共施設の戦略的再編整備検討委員会 議事録

- 1 日 時 平成30年10月17日(水) 13:30~14:40
- 2 場 所 福島市役所4階庁議室
- 3 出席者 佐藤 滋 委員長、奥本 英樹 副委員長、菅野 廣男 委員、後藤 忠久 委員、齋藤 美佐 委員、霞 朝子 委員、原 馨 委員、三瓶 章 委員、門田 敦嗣 委員、池澤 龍三 委員、紺野 喜代志 委員
- 4 内 容
 - (1) 開会
 - (2) 議事
 - ① これまでの検討委員会の振り返り等について
 - ② 検討委員会提言書(案)について
 - (3) その他
 - (4) 閉会
- 5 概 要 議事内容について事務局説明後、質疑応答、意見交換
- 6 委員の主な発言
 - 委員長 これまで議論を重ねていただいたことについて事務局にまとめてもらい、提言書(案)になっている。本日は最終回なので、この提言書(案)に対してご意見をいただきたい。
 - 委 員 これまでの3回の検討委員会の中で、色々な意見を述べたが、それなりに提言書に盛り込まれていると思う。提言書としては、我々が検討委員会として与えられた役割を考えると、このような形になるのだと思う。なので、提言書に対する意見は特にない。
ただ、一市民としての要望として考えると、公共施設の戦略的再編整備というのは、「整備する」ことや「つくる」こと自体が大事なのではなくて、その後、これらがどのように市民に対して価値をもたらすのか。市民の利便性向上だけでなく、ふくしまの活力を生み出すことが大事であり、これらを活かすための戦略を我々はほとんど議論していない。なぜならば4回の検討委員会の中において、それは我々の役割ではないからである。今後整備されるであろうコンベンション施設を活かすための本当の意味での戦略を、これからしっかりと考えていただきたい。中心市街地将来ビジョンの方向性とも整合しているが、「風格ある県都ふくしまの実現」の5つの方針は、ひとつのビジョンであって、何がどこまでできたらこれらを達成できたことになるのか、明確な成果指標が必要である。例えば「広域的な拠点地区として活力のあるまちづくり」を目指すならば、県外等から交流人口をどのくらい増やせば達成できたのか。あるいは、「まちを楽しみ、すごせるシンボル軸・回遊空間づくり」であれば、休日の中心市街地に県民はどの

くらい滞留しているのだろうか。「魅力的で賑わいのあるまちづくり」であれば、市の税収はどのくらい増えたのだろうか。具体的な数値目標を考えながら、それらを達成すれば、これら再編整備は意味があったことになるが、どのように達成するのかという明確な戦略をしっかりと考える必要がある。整備して終わりではない。

第3回の検討委員会でも意見したが、民間であればイニシャルコストを回収して初めて価値を生んだことになる。これから先の、市や民間と連携するであろうタスクフォースの皆さんで、本当の意味での戦略を練り上げていただきたい。要望として申し上げる。

○委員長 ありがとうございます。提言書への意見ではないが、議事録にしっかりとまとめて、行政で共有していただきたい。

○委員 住民代表という立場からお話をさせていただくと、図書館本館のあり方について、これまで3回の検討委員会の内容を踏まえまとめてあるが、これまでのそれぞれの福島市の首長が想いを込めて、学習センターに図書室を配置され、あり方を含めて図書館が配置されてきたわけである。そのような歴史的な経過を含めて、福島市は文教都市であると思っている。大学にも図書館はあるが、市民が大学図書館を利用する位置付けとなると、残念ながら現状ではそこまで至っていないと思う。大学生の皆さん同士であっても、各大学の交流を含め、図書館の相互利用は中々見えないと感じる。市民の目線に立ち、今後の広域行政を見据えた場合、県北地域は一つの市になるかもしれない。そのような時に、福島市の図書館本館は、将来にわたり課題を残さないように十分に検討され、再整備をお願いしたい。

もう一つ、今後の歴史的な建造物についてである。日本銀行福島支店は、東北地方で最初の、全国でも7番目の支店として開設されたものであるが、残念ながら取り壊されてしまった。その建物が残っていれば、街の回遊性を含め、良かったのではないかと考える。これからの将来の都市づくりの視点において、壊してしまった後ではどうしようもないので、公共施設の再編整備を含め、市民の意見を踏まえ、十分な検討をお願いしたいと思う。

提言書の文面については、(案)のとおりで良いと思う。

○委員 ハード整備も大事であるが、その後のソフトや運営面がとても大事だと考える。特にコンベンション施設については、どれだけ人を呼び込むことができるか、コンベンションビューローのような組織やソフト整備を官民一緒になって行うべきだと思うので、今後、それらの検討をしっかりと進めていただきたい。それによって、ハード整備したものを将来にわたって活かせる施設にしなければ意味が無いと思っているので、その後の運営についてはぜひ検討してほしい。

それから、市役所本庁舎西棟についてであるが、西棟に予定する市民交流機能と市民会館機能や中央学習センター機能を複合化することは大賛成であるが、西棟と言えば今までは議会棟というイメージがあったわけだが、そのことに関して表現されていない。今までどおりの議会棟の中にこれら機能を整備するのか、根本的に見直すということな

のか、その点が明確になっていないように感じる。西棟という言葉に集約され、分かりづらいので、その点は検討されてはどうか。

○委員長 この検討委員会では、議会機能については議論していないし、議論する権限もなかったので、提言書に盛り込むことは厳しいと思うが、事務局で説明できる部分についてお願いしたい。

○事務局 市役所本庁舎西棟については、あくまで市民交流機能を対象として検討委員会で議論していただいたところである。西棟は建設延期中という位置づけであるので、議会機能についても、現時点においては従来の設計のまま、市民交流機能等の部分について議論をしていただいたものである。

○委員 副市長であります。議会棟というより、議会機能をどのように考えるのかというお話かと思うが、もともと、西棟設置には議会機能だけでなく、市役所で慢性的に不足している会議室機能を補完する意味合いもあった。今までは、その多くを市民会館に頼ってきたわけだが、その市民会館が今回の再編整備の対象となっていることから、市民会館が担ってきた会議室機能というものは、大変重要なものであると考える。議会機能は行政との両輪であるので、その受け皿としての議会施設のあり方については、検討委員会の権限外のことでありと認識しているので、市役所内部で今後の検討課題としたい。

○委員 具体的な案件については、今後各委員会等で検討していくこととなっているが、使う側からすれば、もう少し具体的なことが決まる前に、ヒアリングなど様々な手法により各分野にまたがり市民の声を聴く必要があると感じている。方向性については、提言書（案）のとおりだと思うが、具体的なことは今後検討すべき課題だと考える。

○委員 先ほどからハードだけでなく、ソフト事業も進めるようにとのご意見があったが、私も同様に感じている。スピード感があることは大変よいことだが、急ぎ過ぎて、この計画が実現したときに、そこを担っていく、あるいは利用していく市民やステークホルダーの人材育成であるとか、考え方の共有化などが一番必要になってくると感じたので、スピード感がある中でも、それらが置き去りにされないような進め方をしていただきたい。それから、提言書の中には謳っていないが、アクセス機能については、十分に真剣な検討をされて、具現化し、実現できるようなアクセスの検討を重ねて欲しいと思う。

○委員長 アクセス機能について、もう少し具体的に説明をお願いしたい。

○委員 例えば、この再編整備が確定して、市民や来訪者の中心市街地の回遊性を考えたときに、少なくとも公共交通機関でたどり着けるとか、ワンストップで目的を果たせるとか、定額タクシーなども工夫されているが、具体的な足となるものを検討し、利便性ありきで実現していただきたいと考える。

○委員 私も、提言書に書かれている内容は、このようになってしまふのだなと理解している。皆さんが言うように、戦略的再編整備というのは、どのように活用できるのか、使ってみてどのように目標が達成されるのか、はっきりわかるようになるのが良いと思う。

図書館については、あり方をきっちり考えてやりなさいという提言書になっている。「こうしなさい」ではなく、自分たちで利用者の意見を聴き、自分たちの指標を持って図書館をつくりなさいという提言書がまとめられたことについては、嬉しく思う。利用者の意見が反映できるようなコンセプトをつくって、図書館として提案して、みんなが使える図書館になってもらえれば良いと思う。それ以外のところについても、私たちが一市民として活用していける施設になっていただければと思う。提言書としてはこの文言でかまわないが、「どのように活用されるべきなのか」ではなく、「どう活用していくのか」という視点で、これから一市民として関わっていこうと思う。

○委員 私も、提言書について修正等はないと考える。ただ、気になるところは、最後に優先度の考え方を入れたことは良かったと思うが、消防本部・福島消防署や市役所本庁舎西棟、コンベンション施設はそれぞれが大きな事業費を伴うと思われることから、それぞれの優先順位も考える必要がある。そこで悩んだ時に、市民の皆さんにとって最も大事なものは、安全・安心であると思っている。これまで検討委員会に参加した際には、いつも「ふくしまの水」が席上に置いてある。わたしは東京から参加しているので、外部から見たときに、ふくしまの良さは何だと言われれば、この水に象徴されるように、安全である物を継続的に供給していくことだと思う。その継続の力が大事だと考える。これらの再編整備の機能についても、市民の皆さんの安全・安心に寄与するものをしっかりとつくっていくことに発想をフォーカスした方が分かりやすく整理できると思う。

最後に、全国の自治体を見ていると、利用者のことを市民と捉えがちであるが、実際には直接利用せずに、税金を含め負担している多くの市民がいるわけである。ここをしっかりと念頭に置いて、利用者と負担者の両方の市民を考えないと、理想郷ばかり追い求めてしまいがちである。負担者側も福島市民であるということをしっかりと考える必要があると思う。

○委員 私も提言書に関しては、これまでの検討委員会での議論をカバーする内容となっており、修正等はないと考える。他の委員の皆さんからもご指摘があったように、整備するにあたって、どのように効果的に進めるか、そして、どのように後世に価値のあるものにしていくのかを検証すべきという点は同感である。また、優先順位と言いながらも、大きな費用が発生することは間違いないので、これをどうやって実現していくのか、具体的なスケジューリングや、更なる優先度については、それに対する支出や手法についての引き続き検討が必要である。特に民間と協調して、どのようにして効果を最大化するのか、負担を適正にしていくのか、その部分は必要だと考える。

一方で、中心市街地将来ビジョン検討委員会でも検討していると思うが、一つの柱となっている賑わいというものは、施設によってもたらされるものでない。施設を使っ

て、継続的に地域で何をやっていけるのかという部分が非常に重要である。うまくいっている賑わい施設というのは、周りがその施設を利用して、どのような仕掛けをつくっていくのか、自分たちの価値やメリットをどのように引き込んでいくのか、そのような点が重要である。駅前の地域にあつては、周辺の事業者や、住民との関係が重要である。

なお、前回の検討委員会で気になった点は、福島駅新東西自由通路について、災害時に既存の機能がワークしなかったのは重い話だと思う。駅前再開発事業では分譲住宅や賃貸住宅が予定されていると思うので、安全・安心という観点から、新東西自由通路があった方がよいのかどうか。また、駅前再開発が行われれば、駅周辺の価値は上がると思うが、その価値を周辺にも及ぼすためには、駅で分断されているというわけではないが、回遊性をどれだけ確保できるかということが、メリットを効果的に波及させる重要な観点かもしれないと思う。これらの二つの観点がポイントになるのではないかと考えるので、今後検討いただければと思う。

○委員 学習センターの組織代表として、この提言書に異論なく、素晴らしい委員の皆様の議論により、位置づけられまとまったことに感謝する。ただ、図書館に関しては、もう少し詳しく議論が進められればと、余韻を感じている。図書館という大事な施設について、これからの方向性としては、整備検討委員会などを設置して、有識者や市民の意見が取り入れられていくと思うが、駅前なのか、あるいは西棟なのか、位置づけが明確であればと感じている。中央学習センターに関しては、委員の皆様に感謝申し上げたいと思う。

○委員長 図書館に関しては、事業が動くまでには決断しなければならないということで、様々な意思決定の会議などを経て、今後決まっていくものと思う。本日のご意見としては、提言書としてはこの内容で結構である。引き続き、各委員の皆様から重要なお指摘をいただいたので、最終回の議事録として大事に扱っていただくようにしたい。

○委員 これは難しい問題だが、今回再編整備したものを、次に再整備するのは50年後ぐらいになるかと思う。その時、福島市も人口は減っているだろうし、行政のあり方も変わっていると思われるが、街は次々に変化していくものなので、予見したものが反映させられると良いのではないかと。特に駅前周辺は重要な地区なので、福島市民のために長く機能を果たしていくためには、その点を考慮した方がよいのかと思う。

○委員 中心市街地将来ビジョンの話かもしれないが、風格ある県都とはいったい具体的にどんな県都なのだろうか。その思いが、市民に共有されるものでなければならない。なぜ再編整備をやるのか。それは市長が言うのか、市役所として言うのか、この提言に対して、顔が見えてこないといけないと思う。それは市役所という顔で良いのだと思うが、市民と共有した時に初めて、市民と協働できると思うので、市がこれを実施することを示すにあたっては、その思いを伝えて欲しいと思う。

○委員長 委員の皆さんから、様々なご指摘、ご意見をいただいたが、その他はよろしいか。そ

れでは、私が気になった提言書の文言で「延命化措置」という表現の部分があるが、違和感があるので、表現の修正を事務局にお任せしたいが、よろしいか。よろしければ、最後に副市長からお話をいただきたい。

○委員 最終回ということで、今までの御礼を含め発言させていただく。皆様方には長い期間色々多方面にわたり貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。皆様からいただいたご意見は、提言書としては文字面でしかないわけであるが、そこに魂を入れて、顔が見えるような、市としての気持ちや想いを前面に出すような形に仕上げることが重要だと考える。また、我々が青写真として機能的な再編までをイメージしていたところ、委員の皆様方からは一歩も二歩も前進した、各施設の個別計画の参考となるような貴重なご意見までいただいたので、事務局としても大変大きな追い風をいただいたと思っている。これらをしっかりと整理して、次に進めていきたいと考えているので、引き続きご支援を賜るようよろしくお願いするとともに、改めて感謝申し上げます。

○委員長 それでは、検討委員会としての役割は終了したということで、委員の皆様のご協力に心から感謝する。ありがとうございました。